

20110

Endovascular Treatment for Post Thrombotic Syndrome due to IVC filter occlusion

¹京都桂病院

小林 智子¹、平野 正二郎¹、岩崎 義弘¹、永井 泰斗¹、高橋 智紀¹、溝渕 正寛¹、船津 篤史¹、中村 茂¹

IVC filter は急性期肺塞栓を予防するが、長期留置に伴う塞栓症リスクが増加するため早期除去が推奨される。今回、IVC filter 閉塞による post thrombotic syndrome と考えられる巨大動静脈シャント・下肢うっ血・潰瘍形成をきたした症例に血管内治療が効果的であったので報告する。78歳女性。2010年1月 IVC filter 留置術施行。抗凝固療法は filter 留置前から継続。2013年から右下肢の浮腫・潰瘍が出現し、2014年に IVC filter 閉塞と右内腸骨動静脈シャントによる静脈圧上昇と診断し、直視下にてシャント閉鎖術を施行。2016年秋から再び浮腫・静脈性潰瘍が増悪・難治性となり当院心臓血管外科紹介。造影CTで、骨盤内の内腸骨動静脈シャントからの collateral が一部瘤状拡張し閉塞した IVC filter を迂回して還流していた。stent graft 留置による内腸骨動脈閉鎖術前に、内腸骨動脈以外の collateral 血流閉鎖と IVC filter 再還流のための血管内治療を行った。深大腿動脈の側枝からの collateral を選択的にコイル塞栓術施行。閉塞した OptEase 内は astateXS9-12 で通過に成功し、前拡張後に Epic Vascular10×80mm を留置。前拡張直後の SVC と右 iliacV の圧較差 67mmHg は、手技終了時 21mmHg に改善。3日後に心臓血管外科にて、左右内腸骨動脈プラグ塞栓術、腹部大動脈から左右外腸骨動脈への stent graft 留置による動静脈シャント閉鎖術を施行し流入血流は著明に減少。下肢の浮腫が軽減し、潰瘍も治癒傾向となった。IVC filter 慢性閉塞による post thrombotic syndrome に対して血管内治療のコンビネーションが有効であった。